

スクレタン[®]水和剤

| | |
|-----------------------|-------|
| ■種類名：銅・プロシミドン水和剤 | |
| ■有効成分：塩基性塩化銅 | 67.3% |
| [銅として] | 40.0% |
| プロシミドン | 20.0% |
| ■化管法指定物質：プロシミドン [第1種] | 20.0% |
| ドデシル硫酸ナトリウム [第1種] | 2.2% |

| |
|------------------------------|
| ■登録番号：第16433号 |
| ■毒性：普通物(毒劇物に該当しないものを指していう通称) |
| ■登録初年：1986.07.10 |
| ■性状：淡緑色水和性粉末 45μm以下 |
| ■有効年限：4年 |
| ■包装：500g×20袋 |

【特長】

- 灰色かび病、菌核病防除剤プロシミドンと銅剤との混合剤。
- 灰色かび病と併発する各種細菌性病害および糸状菌病に効果を示す。
- きゅうり、すいか、ばれいしょ、たまねぎ、レタス、みかんで適用がある。

【適用内容】(2024年11月末日現在)

| 作物名 | 適用病害名 | 希釈 倍数 | 使用 液量 | 使用時期 | 本剤の 使用回数 | 使用 方法 | 銅 を含む 農薬の総 使用回数 | プロシミ ドン を含む 農薬の総使 用回数 | |
|-------|-------------------------------------|--|--|----------|-------------|----------|--------------------------|-----------------------------------|------|
| きゅうり | 灰色かび病、べと病 斑点細菌病、菌核病 炭疽病、うどんこ病 | 500倍 | 100～ 300 $\frac{\text{mL}}{10\text{a}}$ | 収穫前日まで | 6回以内 | 散布 | — | 6回以内 (常温煙霧は 2回以内) | |
| すいか | つる枯病、菌核病 炭疽病、褐斑細菌病 | | | 収穫7日前まで | 5回以内 | | | 4回以内 | 5回以内 |
| たまねぎ | 灰色腐敗病、軟腐病 灰色かび病 りん片腐敗病 | | | 収穫前日まで | | | | | |
| レタス | 菌核病、灰色かび病 軟腐病、腐敗病 | | | 収穫7日前まで | | | | | |
| ばれいしょ | 菌核病、疫病、軟腐病 | | | 収穫21日前まで | 3回以内 | | | 4回以内 | |
| みかん | かいよう病 灰色かび病 | 200～ 700 $\frac{\text{mL}}{10\text{a}}$ | 開花期 但し、収穫30日前 まで | 3回以内 | 3回以内 | | | | |

【効果・薬害等の注意】

- 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
- マシン油乳剤及びチオファネートメチル剤との混用はさけること。
- 定植直後又は幼苗、軟弱苗などには薬害を生じるおそれがあるので、使用はさけること。
- 高温時の散布は薬害を生じるおそれがあるので注意すること。
- あぶらな科作物(特にはくさい、だいこん、ストック)には薬害を生じるおそれがあるので、かからないように注意すること。
- みかんに使用する場合は、薬害(スタメラノーズ)の発生を防止するために、炭酸カルシウム水和剤を加用すること。
- レタスに使用する場合は薬害を生じるおそれがあるので、炭酸カルシウム水和剤を加用すること。なお、収穫間際の散布では収穫物に汚れを生じるおそれがあるので注意すること。
- 薬剤耐性菌の出現を防ぐため、本剤の過度の連用はさけ、なるべく作用性の異なる薬剤と組み合わせて輪番で使用すること。

【安全使用上の注意】

- ❖ 通常の使用方法では危険性は低いが、誤飲誤食などないように注意すること。
万一誤って飲み込んだ場合には、吐き出させ、安静にして医師の手当を受けさせること。
本剤使用中に身体に異常を感じた場合には、安静にして直ちに医師の手当を受けること。
- ❖ 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入らないように注意すること。
万一眼に入った場合には直ちに水洗し、医師の手当を受けること。
- ❖ 散布の際は防護マスク、手袋、長ズボン、長袖の作業衣などを着用すること。
また、散布液を吸い込んだり、浴びたりしないように注意し、作業後は顔、手足などを石けんでよく洗い、うがいをする。
- ❖ 魚毒性等：水産動植物(魚類、甲殻類、藻類)に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使い切る。
- ❖ 散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。
- ❖ 保管：直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。